

## 令和元年度桜門体育学会大会報告

# 大会報告

日本大学芸術学部 小沢 徹

令和元年度桜門体育学会大会(第10回大会)は、令和2年1月25日(土)に開催されました。会場は日本大学文理学部百周年記念館で、3年ぶりに文理学部で行いました。本大会は、プロジェクト研究発表、一般発表(ポスター、口頭)、特別講演、シンポジウム、総会、懇親会というプログラムで行われました。

プロジェクト研究発表では、本学会が平成28年度から平成30年度にかけて日本学術振興科学研究費〈基盤研究(C)スポーツ科学〉に採択され取り組んできたプロジェクト研究である「大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果—メタ分析及び大規模調査—」について、研究代表者である磯貝浩久先生(九州産業大学)より、その成果をご発表いただきました。

特別講演では、川上央先生(芸術学部音楽学科教授)に「感覚・感情・感動」というテーマで、芸術分野、特に身体技術を必要とする音楽を中心に、感覚と技術の連動についての解説と、その際に必要となる感情について講演いただきました。

続くシンポジウムでは、北村勝朗先生(日本大学理工学部教授)をコーディネーターとしてお迎えし、特別講演に引き続いて川上先生、飯田竜太先生(日本大学芸術学部美術学科准教授)、松山立先生(日本大学芸術学部演劇学科専任講師)とともに、「感性をどう教えるか」というテーマでディスカッションをしていただきました。本シンポジウムでは音楽、美術、演劇を専門とする先生方から、芸術のみならずスポーツ、体育でも重要とされる感性の指導方法についてお話いただきました。スポーツとは異なる分野ではありますが、普段はなかなか聞くことのできない、芸術分野

におけるそれぞれの指導方法を知るという貴重な機会となりました。

一般発表では、ポスター発表72演題、口頭発表5演題の発表が行われました。それぞれ、限られた時間の中で、座長の先生方の進行により円滑で有意義な発表となりました。

総会では、例年通り学会の運営に関する事項が報告、審議され、議長により滞りなく進行していただきました。総会中には一般発表における優秀発表賞も発表され、ポスター発表からは三井萌氏(日本大学商学部)、大山美咲氏(日本大学スポーツ科学部)、高階曜衣氏(日本大学文理学部人文科学研究所)、西川大和氏(日本大学商学部)の4名、口頭発表からは佐藤紀子氏(日本大学歯学部)の1名が受賞しました。その後懇親会が開催され、本大会は閉会しました。

今回企画した特別講演、シンポジウムともに、参加した学生および教員から多くの反響があり、芸術とスポーツで共通する感性への関心の高さを改めて確認することができました。今回の内容が、スポーツにおける今後の指導や研究の新たなきっかけとなれば幸いです。

本年度は、芸術学部で開催する予定でありましたが、学部の学事日程の都合により文理学部での開催となり、学部を横断して準備を行い、特に会場となった文理学部の先生方には多大なご協力をしていただきました。また、多くの企業や団体の方々にもご支援をいただきました。そして、参加者を含めたすべての皆様のご協力のおかげで本大会が無事に終了したことに、心より御礼申し上げます。